C－53 ニットにおける袖山のいせこみ分量について

東京学芸大　石毛フミ子　○鳴海多恵子　立正女子大　松田歌子

目的　最近ニットの既製服が多く市場に出まわっている。ニットの既製服を着用した場合、袖山のいせこみ分量の多少が着心地、外観、上肢の動作に影響することが大きいことを経験する。袖山のいせこみ分量について検討を行った。

方法　実験材料は、上こメリヤスの毛100％，厚さ1.17mmと綿100％，厚さ0.62mmを用い、毛はアームホール42cm，袖山の高さ$A.H/4+3$cm，綿はアームホール40cm、袖山の高さ$A.H/4+\alpha$cm、その他は同一寸法にて，いせこみ分量の異なる5種類の袖を作製し、片半身頃に各15枚ずつ、計30枚，実物5枚ずつ，計10枚を作製し、縫製後および水洗（綿）後，ドライクリーニング（毛）後のものについて被服製作に高度の経験のあるパネラーにより、外観上の官能検査を行った。なお、被検者による着用実験を行い、着心地，動作の上からいせこみ分量の適量を検討した。

結果　官能検査と着用実験を行った結果，厚地では外観は製図上のものでは少なく、計算値※以上の分量が必要であり、動作の上でも計算値以上の方が動作がしやすく、着心地がよい。薄地では外観上は、製図上のいせこみ分量が適当であり、計算値以上になると多すぎる。また動作の上からは、薄地で伸度が大きいためいせこみ分量の多少には着心地に大差はみられなかった。

※計算値＝（厚さ＋持上りの高さ）×2π